

シリーズ 施設紹介

会員が所属する各施設を、順次紹介して頂いているシリーズです。
今回は、見附市立病院を紹介します。

見附市立病院 看護部長 古畑 まり子



見附市立病院は、新潟県の「へそ」と呼ばれる見附市にある自治体病院です。平成4年に開設し、中越圏域の回復期・慢性期、高齢者の急性期の病床機能を担っております。病床数は、94床で看護体制10対1の急性期一般病棟（47床）と、13対1の地域包括ケア病棟（47床）があります。外来受診患者様の9割、入院患者様の7割が市内在住の方です。小規模病院の強みは、医療従事者と地域の方との「距離」が近い事です。病院の理念「信頼され、愛され、地域と共に歩む病院」の通り、地域住民のニーズを把握し、患者様やご家族様をはじめ住民の皆様へ安心と信頼を届け、親しまれる地域医療を目指しています。

看護部では、患者様が住み慣れた場所でその人らしく安心して暮らすことができるように、在宅復帰を見据えた看護実践（排泄行動の自立支援、認知症看護、摂食嚥下障害看護、糖尿病療養指導等）に力を入れています。特に地域包括ケア病棟では、ADLの低下した患者様の排泄行動の自立支援に取り組み成果を上げています。オムツ使用から排尿誘導へ、ポータブルトイレからトイレ誘導へと離床を勧めることで、排泄行動の改善のみならず、センサー解除や自宅へ退院される患者様が

増えています。そして、看護師のやりがいにも繋がっています。

また、新潟県看護協会の出前研修を活用しスキルアップを図っています。昨年度は、皮膚・排泄ケア認定看護師から褥瘡予防のポジショニングを学びました。この研修をきっかけに体位変換枕の新規入れ替えと除圧グローブの補充を行い、新規褥瘡発生者の低減を目標に体位変換やギャッチアップ後の除圧実施など褥瘡予防に取り組んでいます。スタッフ全員で統一したケアを行うことはなかなか難しいですが、看護師だけでなく看護補助者も含め全員が除圧の患者体験を行い、患者様にとってより良いケアの実現に向けてチームワークの向上を図っています。

他に「看護職が働き続けられる職場づくりの推進」に向けて、今年度は、より負担の少ない夜勤・交代制勤務実現に向けて、実態調査を行いました。当院は、2交代制を導入しており夜勤時間16時間です。生産人口が減少し定年退職年齢が延長される中で、60歳を過ぎても交代制勤務可能な夜勤体制を整備する為に夜勤時間の短縮という大きな課題があります。実態調査結果より、安眠できる仮眠室の環境整備や夜勤回数の平均化、有給休暇取得の推進が、比較的直ぐに取り組める課題に上がり、改善に向けて取り組み始めています。

実態調査では、課題だけでなく当院の良さも確認できました。例えば、超過勤務時間が少ない（2024年度：1時間/月）、離職率が低い（2024年度：2.7%）などです。今、世界中で「ウェルビーイング」が注目されています。当院看護部も看護職自身が日々の看護実践にやりがいを実感し、心身共に充実して働ける環境づくりを目指していきます。



三尺玉

新潟県看護協会 長岡支部

第62号 令和8年2月発行

令和7年度新潟県看護協会長岡支部会員数は2,937名です。

(令和7年12月31日現在)

長岡支部支部長の挨拶



社会医療法人 崇徳会 田宮病院 澤中 政道

会員の皆様におかれましては、平素より当支部活動に多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。この度、前任の平原智子支部長の後任として、令和7年6月21日付けで長岡支部支部長に就任いたしました。澤中政道と申します。身に余る光栄とともに、その職責の重みに身の引き締まる思いでございます。前任の平原智子支部長のご任期中のご尽力に対しましては、深く敬意を表します。

新潟県看護協会では、4点の重点目標・重点事業に対し令和7年は最終年度として事業を加速させ一定の成果を上げており、長岡支部もそれらに付随した活動をしてきました。研修については、各委員会で旬なテーマを取り上げ会員様と学べる機会を提供してきました。当支部では、今後も会員の皆様の専門性向上を支援するため、医療・看護情勢に即した研修会や情報提供、そして活発な交流の場を提供できるよう、役員一同、誠心誠意努力してまいります。長岡地域活動では「糖尿病を知るつどい、すこやか・ともしびまつり」などに参加協力して、参加者の健康増進に向け健康に関して意識向上や啓発への効果があったと思っております。さて、私たち看護職を取り巻く環境は、地域包括ケアシステムの推進や多職種連携の深化など、常に変化し続けています。こうした変化の中、現場で奮闘されている会員の皆様の日々の献身に、改めて感謝申し上げます。

私が支部長としての責務を果たすにあたり、常に心に留めている言葉に「自利利他」がございます。「他者を利することが結果として自らを利することになる」というこの教えは、患者様や地域の方々のために尽くす私たち看護職の仕事そのものを表していると確信しております。この崇高な信心を胸に、会員の皆様と共に、看護の質の向上と地域医療への貢献に邁進してまいりたいと考えております。

ここで、皆様へお願いがございます。現在、当支部にはまだ多くの潜在看護職員や未入会の看護職の方がいらっしゃいます。看護協会は、会員の皆様一人ひとりの声が集まることで、より大きな力となり、看護職の勤務環境改善や専門性の向上を推進することができます。より多くの仲間を迎え入れ、共に学び、支え合う体制を築いていきたいと願っております。

皆様におかれましては、ぜひお近くの同僚や知人の方へ、当協会へのご入会をお勧めいただければ幸いです。会員確保に向けた活動、支部へのご意見、ご要望などがございましたら「tamiya-sawanaka@sutokukai.or.jp」にメールお願いいたします。

甚だ未熟ではございますが、皆様のご指導ご鞭撻を賜りながら、会の発展に尽力する所存です。会員の皆様のなご一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、会員の皆様のご健勝と、各施設・事業所の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

令和8年度 新潟県看護協会長岡支部 通常集会

[日 時] 令和8年6月27日(土) 9:30~(開始予定)

[会 場] 長岡福祉協会本部会議室

新規会員
募集中!!

活動内容のご案内

看護師職能I・II委員会

看護師職能I委員長 長岡西病院
和久井 真紀子

看護師職能II委員長 長岡保養園
丸山 未来



「一年間の活動を振り返って」

看護師職能委員会では、I・II合同研修会を令和7年11月8日(土)に開催し、会員・非会員合わせ64名の参加があった。

2025年の超高齢多死社会を迎え、日本老年医学会では「終末期」から「人生の最終段階」と表現が改められた。厚生労働省の「人生の最終段階の医療・ケアのプロセスに関するガイドライン」でACPが提唱され、私たち医療・福祉の現場でも、意思決定支援の重要性が高まっている。しかし現状では、ACPについて家族間で十分に話し合われていないことが多く、IC時に本人の意向が確認されないまま治療方針が決定され、その後も話し合いの機会を持たず、看護師がジレンマを抱えながらケアを行うケースも少なくない。また、私たち支援する側も、ACPへの理解不足により十分な意思決定支援を実践できていないと感じる場面もある。そこで、老年看護学講師の多田先生を迎え、「高齢者のACP」をテーマに講演が行われた。

講演では、日本老年医学会の「立場表明2025」を基に、本人の意思決定を基本とし、治療方針の決定がゴールではなく「その人にとっての最善の医療・ケア」や「その人らしさ」について、双方で考えていくプロセスが重要であり、本人の意思と意向を尊重することにつながることを学んだ。高齢化に伴い、認知症人口も増え、ますます自己決定が難しくなると考える。対象者をよく観察し、話し合いの場だけでなく、日頃のベッドサイドでのちょっとしたサインやつぶやきなど、Sデータに着目することも大事であると講師から学んだ。看護師ができることは「自分自身がどう生きたいか、どう考えたいかを見つめる機会をもつ」「私だったらこう考える」を持ちつつ、本人・家族の考えを否定せずに受けとめ、一緒に最善のケアを考えていくことが必要だということを変更して考えることができた。様々なジレンマを

チームで共有しながら、「本人の満足」を物差しに、意思決定支援について今後も取り組んでいきたい。

高齢者のACPについては、診療報酬に係る重要な取り組みであり、それぞれの施設で実践していくにあたり、今後活かせる大変学びの多い、有意義な研修会となった。

看護師職能I・II委員会は、今後も看護職の質の向上、職能活動の活性化、支部活動への連携・協力を役割とし、支部会員の皆様に興味を持って参加していただける研修会を企画してまいりますので、ご協力をお願いいたします。

●看護師職能I・II合同研修会

目 標：①ACP(アドバンス・ケア・プランニング)が提唱された歴史的背景と現状のACPの課題について理解する。

②ACPの考え方を理解し、日々の高齢者へのケアに取り入れる方法を考えることができる。

③ACPを促進する看護師の関わり方について考えることができる。

日 時：令和7年11月8日(土) 13:30~15:30

会 場：長岡福祉協会 多目的ホール

テーマ：「高齢者のACP(アドバンス・ケア・プランニング) —その人らしい最期を迎えるための意思決定支援—」

講 師：長岡崇徳大学老年看護学 多田 健一 先生



助産師職能委員会

助産師職能委員長 長岡中央総合病院
郷 遥 香

私たちは日々、母子の安心・安全の確保に全力を尽くして活動しています。今年度も助産師職能委員長岡支部は、県央支部と合同で活動を行いました。他支部の助産師と活動をすることで他市町村での取り組みを知ることができ、情報共有ができる貴重な場となっています。

研修会については昨年度と同様、「切れ目ない支援のためにつながろう」というテーマで情報交換会を開催しました。施設や地域で活動する助産師、行政で働く助産師・保健師など、23名の方にご参加いただきました。

参加者の方々には「顔の見える関係性を構築する」「知識や経験の共有ができる」という目標のもと、母子支援を行う上での疑問や悩みなどを自由に情報交換していただきました。様々な立場から活発に意見交換が行われました。今後の母子支援の輪がさらに強く、切れ目なく繋げられるような内容となりました。



●研修会

日 時：令和7年10月20日(月) 13:15~15:30

会 場：ハイブ長岡

内 容：長岡・県央支部合同交流会 切れ目ない支援のためにつながろう

保健師職能委員会

保健師職能委員長 長岡市健康増進課
久保 久 美

研修会後の交流会は和気あいあいとした雰囲気で行われました。その中で、つながる人がいること、雑談でき、笑い合える人がいることがレジリエンスを高めるために大切であるという研修会の内容を実感することができました。

●研修会・交流会

日 時：令和7年12月4日(木) 18:30~20:30

会 場：WILLOW HOUSE

テーマ：「レジリエンスの高め方」

講 師：中村経営総合研究所 中村 容子 様

保健師職能委員会では、会員相互の親睦を図り、情報交換を行うことで、お互いの資質向上に努めることを目的に活動しています。令和7年度は、長岡市宮内の古民家レストランWILLOW HOUSEを会場に、研修会及び交流会を開催し、25名の参加がありました。

研修会講師に産業カウンセラーの中村容子先生をお迎えし、ストレス過多な現代人の状況とストレスマネジメントの重要性、レジリエンスを高める方法について講義していただきました。

レジリエンスとは、「人生における困難な逆境や強いストレスに直面したときに、状況にうまく適応する心理的なプロセス」であり、レジリエンスの究極は「なんとかなる」という現実的楽観性であり、困ったら頼ってもよいこと、そのために日頃からのコミュニケーションが大切であることを教えていただきました。

アンケートでは、「自分の強み、弱みを考えるきっかけとなった」、「支援者自身の心が元気でないと住民を元気にできない」、「これまで困難なことを乗り越えた自分の力を信じることができた」、「疲れていた自分をねぎらって頑張ろうと思った」など、前向きな気持ちになれたという意見が多くありました。

